

# 藤崎遺跡 10

— 藤崎遺跡第25次調査 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第419集



1995

福岡市教育委員会

## 序

藤崎遺跡の所在する福岡市早良区の藤崎・百道・高取地区は福岡市の副都心として地下鉄の開通以来、周辺開発が進んでおり、これに伴う埋蔵文化財の調査もすでに26次を数えます。

藤崎遺跡はとくに弥生時代から古墳時代初頭の一大墓地群として著名ですが、今回報告いたします25次調査はこの墓地群の一画の調査にあたります。

本書はこの発掘調査の成果を収録したものです。本書が、埋蔵文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術研究においても活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に際して地権者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表する次第です。

平成7年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 尾花剛

———— ◇ ————— ◇ ————— ◇ —————

## 例　言

- 1 本書は福岡市教育委員会が福岡市百道における共同住宅建設に先立って緊急発掘調査した藤崎遺跡の第25次発掘調査報告書である。
- 2 本書に使用した方位はすべて磁北方位であり、真北からの偏差は西偏6°21'である。
- 3 本書に掲載した遺構の実測は荒牧宏行・中村啓太郎・古川千賀子・藤本忠史が行った。
- 4 遺物の実測、製図は中村・加藤周子が行った。
- 5 本書に掲載した写真は遺構・遺物とともに中村が撮影した。
- 6 本書の執筆は中村が行った。

遺　跡　略　号	FUA-25
調　査　番　号	9356

## 本文目次

### 序

Iはじめに.....	1
1 調査にいたるまで.....	1
2 発掘調査の組織.....	1
II立地とこれまでの調査.....	1
1 立 地.....	1
2 これまでの調査.....	2
III調査の記録.....	5
1 調査の概要.....	5
2 墓 棺 墓.....	5
3 土 坑.....	18
4 小 結.....	18

## 挿図目次

Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1/50,000) .....	3
Fig. 2 藤崎遺跡調査区 (1/3,000) .....	3
Fig. 3 調査区一覧表 .....	4
Fig. 4 第25次調査区周辺現況図 (1/400) .....	5
Fig. 5 第25次調査区造構配置図 (1/150) .....	6
Fig. 6 1・2号墓実測図 (1/20) .....	7
Fig. 7 3・4・5号墓実測図 (1/20) .....	8
Fig. 8 6・7・8号墓実測図 (1/20) .....	9
Fig. 9 9・10号墓実測図 (1/20) .....	10
Fig. 10 17・18号墓実測図 (1/20) .....	11
Fig. 11 12・14号土坑実測図 (1/20) .....	12
Fig. 12 11・13号土坑実測図 (1/30・1/20) .....	13
Fig. 13 1・2・3・4号墓実測図 (1/6) .....	14
Fig. 14 5・6・7・8号墓実測図 (1/6) .....	15
Fig. 15 9・10・18号墓実測図 (1/6) .....	16
Fig. 16 17号墓実測図 (1/6) .....	17
Fig. 17 12・13・14号土坑出土遺物実測図 (1/6) .....	18

## 図 版 目 次

- PL. 1 (1)調査区北部  
(2)調査区南部
- PL. 2 (1)調査区北部(北より)  
(2)1号壺棺墓  
(3)2号壺棺墓
- PL. 3 (1)3号壺棺墓  
(2)4号壺棺墓  
(3)5号壺棺墓  
(4)6・7・8号壺棺墓
- PL. 4 (1)9号壺棺墓  
(2)10号壺棺墓  
(3)17号壺棺墓  
(4)18号壺棺墓
- PL. 5 (1)11号土坑  
(2)12号土坑  
(3)13号土坑  
(4)14号土坑
- PL. 6 出土壺棺
- PL. 7 出土壺棺
- PL. 8 (1)17号壺棺  
(2)土坑出土遺物  
(3)17号壺棺線刻

## I はじめに

### 1 調査にいたるまで

1993年8月24日、森茂之氏より、福岡市教育委員会埋蔵文化財課に早良区百道1丁目807-9・854-2番地における共同住宅設計計画のため埋蔵文化財事前審査願いが提出された。これを受けた埋蔵文化財課では、1993年12月1日に試掘調査を行った。その結果、申請地の南に設定した試掘トレーンにおいて弥生時代の壺棺墓が検出された。その成果をもとに協議を重ねたが、現状での保存、設計変更が困難という結論になり、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。発掘調査は1994年1月17日より開始し、1994年2月23日に無事終了した。

最後になりましたが、発掘調査を行うにあたり、地権者である森茂之氏をはじめ、工事関係者の方々には多大なご協力をいただいた。記して感謝いたします。

### 2 発掘調査の組織

調査委託	森 茂之
調査主体	福岡市教育委員会
調査統括	埋蔵文化財課 課長 折尾学 第1係長 横山邦継
庶務担当	中山昭則 吉田麻由美（前任） 内野保基 西田結香（現任）
事前審査	山口謙治 曾波正人
調査担当	荒牧宏行 中村啓太郎
調査員	古川千賀子（現春日市教育委員会） 加藤周子
調査作業	百武義隆 越智直 藤本岳史 柴田常人 坂田美佐子 堀ウメ子 松井フユ子 柴田タツ子 松本藤子 松隈順子
整理作業	有吉千栄子 池田礼子 赤星攝 吉良山益美 武田祐子
調査協力	小田富士雄（福岡大学） 磯望（西南大学）

## II 立地とこれまでの調査

### 1 立 地

藤崎遺跡は、福岡市早良区藤崎・高取・百道にかけて所在する東西400m、南北650mの弥生時代から中世を中心とする遺跡群である。1977年の福岡市高速鉄道工事に伴って1次調査以来、現在まで既に26次の調査が行われている。かつては、北部の藤崎B遺跡と南部の藤崎A遺跡に分けられていたが、最近の調査成果により両遺跡は一連の遺跡として捉えられている。遺跡は早良平野の東北端に位置し、博多湾の左転回流による砂洲上に形成された標高5~6mの砂丘上とその南側後背斜面に立地している。遺跡の背後には第3紀の独立丘陵である皿山や鹿原山等が連なりこれらの南側には後背の低地が広がっている。

今回調査を行った25次調査区は遺跡の北端に位置し、砂層の堆積状況から河口付近の波打ち際があるいは砂丘間低地の可能性が指摘されている。<sup>(注1)</sup>

## 2 これまでの調査

- 第1次調査 弥生時代前～終末の墳墓群、弥生時代終末～古墳時代前期の住居跡12軒、溝状遺構、柱穴を検出した。
- 第2次調査 弥生時代前～後期の壺棺墓60基、石棺墓2基、土壙墓9基、方形周溝墓1基を検出した。
- 第3次調査 古墳時代前期の方形周溝墓9基、古墳～奈良時代の住居跡7軒等を検出した。6号方形周溝墓から三角縁二神二車馬鏡等の副葬品が出土している。
- 第4次調査 古墳時代前期の壺棺墓2基、方形周溝墓1基を検出した。方形周溝墓には小型彷彿鏡が副葬されていた。
- 第5次調査 弥生時代前期の壺棺墓2基、石蓋土壙墓？1基を検出した。
- 第6次調査 壺棺墓5基を検出した。
- 第7次調査 弥生時代中期～後期の壺棺墓19基、土坑12基を検出した。
- 第8次調査 弥生時代壺棺墓2基、溝1条、中世の溝1条を検出した。
- 第9次調査 弥生時代の方形周溝墓1基、古墳時代の住居跡3軒、中世の溝4条、土坑52基を検出した。
- 第10次調査 弥生時代の壺棺墓6基、弥生時代～古墳時代の土坑6基、古墳時代の方形周溝墓1基等を検出した。
- 第11次調査 弥生時代の壺棺墓4基、溝1条、古墳時代の溝1条等を検出した。
- 第12次調査 弥生時代後期の壺棺墓1基、中世の溝、土坑、井戸を検出した。
- 第13次調査 弥生時代の壺棺墓31基、箱式石棺墓1基、方形周溝墓1基、中世の溝、井戸等を検出した。
- 第14次調査 中世の溝と井戸を検出した。
- 第15次調査 弥生時代の箱式石棺墓、古墳時代の堅穴住居跡、古代～中世の溝を検出した。
- 第16次調査 古墳時代の土坑、柱穴、中世の溝を検出した。
- 第17次調査 古墳時代後期の炉跡5基、中世の掘立柱建物、井戸を検出した。
- 第18次調査 古墳時代後期～中世の溝、土坑、掘立柱建物を検出した。
- 第19次調査 古墳時代後期の土坑、溝、中世の溝、近世の土坑、溝、ピット群を検出した。
- 第20次調査 古墳時代後期の土坑、溝、平安時代末～鎌倉時代の井戸、溝、近代の土坑、溝等を検出した。
- 第21次調査 古墳時代後期～奈良時代の堅穴住居跡、掘立柱建物、古代～中世の溝、土坑を検出した。
- 第22次調査 弥生時代の壺棺墓17基、土壙墓1基、方形周溝墓1基、中～近世の溝、土坑を検出した。
- 第23次調査 古墳時代の土坑、中世の溝、土坑等を検出した。
- 第24次調査 中世の溝、井戸、土坑を検出した。
- 第25次調査 弥生時代の壺棺墓12基、土坑19基、溝1条を検出した。
- 第26次調査 土坑状の落ち込みを検出した。

(注1) 碓望先生のご教示による。

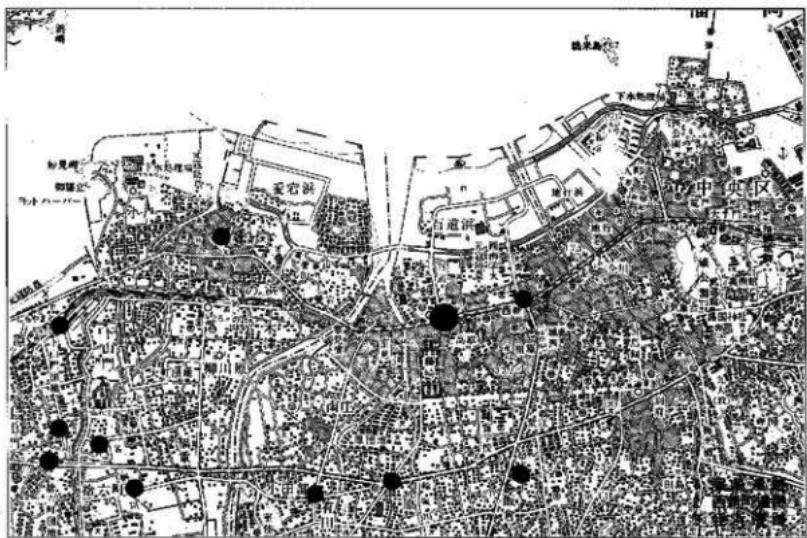


Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1/50,000)



Fig. 2 藤崎遺跡調査区 (1/3,000)

地点名	旧地点名	所在地	面積	調査期間	事業名	時代	遺物	報告書	備考
第1地点	第1地点	藤崎1丁目14		昭和45年3月19日	川庄若五郎民宅	古墳時代	縄文棺	137集	三角錐二神 圓底盤 鐵劍大刀
第2地点	第2地点	藤崎1丁目38		大正6年 昭和5年	村上研究所	佐良時代～古墳時代	輪式石棺 要棺墓	137集	方格文鏡
第3地点	第3地点	百道2丁目13		昭和30年代	旧刑務所	弥生時代	要棺墓	62集	
第4地点	—	高取2丁目17		昭和50年	井戸源前	弥生時代	要棺墓1基	138集	新土器(盛)
第1次	第4地点	百道(旧西区役所前)	4,952m <sup>2</sup>	昭和52年4月～昭和53年6月	高油番地(地下鉄)	弥生時代～中世	要棺墓1基 石棺墓4基 土墳墓23基	62集	新土器1基 瓦片等12片
第2次	第5地点	高取2丁目17	439m <sup>2</sup>	昭和52年8月11日～9月15日	テナントビル	弥生時代～中世	方格文鏡墓1基 要棺墓1基 土墳墓9基		
第3次	第6地点	百道2丁目2-807	2,700m <sup>2</sup>	昭和55年4月14日～7月31日	9番バスター1号	古墳時代初期 弥生～中世	方格文鏡墓9基 土墳墓34基 住居跡7軒	80集	三角錐二神 車馬鏡 铁文鏡
第4次	第7地点	百道2丁目	約143m <sup>2</sup>	昭和55年5月19日～5月28日	地下鉄出入口A	古墳時代初期	方格文鏡墓1基 要棺墓2基	80集	史文鏡
第5次	第6地点	藤崎1丁目11-1	約101m <sup>2</sup>	昭和55年5月29日	地下鉄出入口B	弥生時代初期	要棺墓2基 石棺墓1基	80集	
第6次	—	高取2丁目18	約150m <sup>2</sup>	昭和57年12月	地下鉄出入口C	弥生時代	要棺墓5基		
第7次	—	藤崎1丁目1	200m <sup>2</sup>	昭和58年7月23日～8月26日	整備施設	弥生時代	要棺墓19基 土墳12基	137集	
第8次	—	高取2丁目144-145	532m <sup>2</sup>	昭和59年3月11日～11月11日	テナントビル	弥生時代～中世	青2条 要棺墓2基	138集	
第9次	—	藤崎1丁目2-29	244m <sup>2</sup>	昭和60年2月24日 昭和60年3月8日	吉賀住宅	弥生時代～中世	方格文鏡墓1基、圓 4条、土墳52基、住 居跡3軒	137集	
第10次	—	高取2丁目145番	1,963m <sup>2</sup>	昭和60年1月23日～2月14日	分譲住宅	弥生時代～中世	方格文鏡墓1基、圓 2条、要棺墓6基、井 戸1基	138集	
第11次	—	高取2丁目	443m <sup>2</sup>	昭和60年3月11日～11月19日	テナントビル	弥生時代～中世	要棺墓4基 土墳3条	138集	
第12次	—	高取2丁目142	657m <sup>2</sup> (300m <sup>2</sup> )	昭和60年5月25日～6月15日	大賀幸氏	弥生時代～近世	要棺墓1基、圓3条、 土墳4基、井戸1基	232集	
第13次	—	高取2丁目165	413m <sup>2</sup> (372m <sup>2</sup> )	昭和62年3月16日～7月26日	前田サヨ氏	弥生時代～近世	土墳 住居跡1基、土墳1基	232集	
第14次	—	高取2丁目160番	419m <sup>2</sup> (102.2m <sup>2</sup> )	昭和62年6月18日～6月25日	内山康氏	中世～近世	住居跡 土墳1基 土墳1基	232集	
第15次	—	藤崎1丁目11-1	287m <sup>2</sup> (204.3m <sup>2</sup> )	平成1年6月5日～6月26日	柳井幸子	古墳時代～奈 良、平安	土壇、輪式石棺、住 居跡1軒、土墳2基	258集	
第16次	—	藤崎1丁目1-60	147m <sup>2</sup> (70m <sup>2</sup> )	平成1年9月7日～9月14日	三谷昭臣氏	8C東	土壇2条 土墳1基	258集	
第17次	—	藤崎1丁目115-120	175.02m <sup>2</sup> (120m <sup>2</sup> )	平成2年12月19日～12月23日	無伴宏子氏	7C初～13C	要棺墓1基 井戸1基 住居跡	259集	
第18次	—	藤崎1丁目59	126.24m <sup>2</sup> (166.2m <sup>2</sup> )	平成2年3月1日～7月7日	船山貴二氏	古墳時代後期 ～中世	土壇、住居跡、 輪列、獨立柱建物	259集	
第19次	—	高取2丁目455	674m <sup>2</sup> (350m <sup>2</sup> )	平成2年3月26日～3月29日	株式会社 立井建設	古墳時代後期 ～近世	土壇、溝 立井2基	259集	
第20次	—	高取2丁目173	273m <sup>2</sup> (185m <sup>2</sup> )	平成2年5月23日～7月4日	古田重則氏	古墳時代後期 ～近世	土壇、溝 井戸	338集	
第21次	—	藤崎1丁目56	323m <sup>2</sup> (175m <sup>2</sup> )	平成2年1月13日～2月8日	株式会社 オカタニ	古墳時代後期 ～中世	土壇、土塙 住居跡、獨立柱建 物	338集	
第22次	—	藤崎1丁目6	261m <sup>2</sup> (178m <sup>2</sup> )	平成2年3月13日～3月33日	石橋誠一氏	弥生時代～近世	要棺墓17基 土墳2基 土壇2基 方形須彌壇(?)1基	376集	
第23次	—	高取2丁目15-19	429m <sup>2</sup> (238m <sup>2</sup> )	平成2年10月20日～11月19日	由宇宏貴氏	古墳時代～中世	土壇、十帳、ピット	376集	
第24次	—	高取2丁目290	228m <sup>2</sup>	平成2年5月17日～5月31日	重松孝子氏	中世	井戸、土壇		
第25次	—	百道1丁目807-9	270m <sup>2</sup>	平成2年1月19日～1月23日	森茂之氏	弥生時代	要棺墓12基 土墳10基 土壇2基	本音	
第26次	—	高取2丁目41-2-47	130m <sup>2</sup>	平成6年4月19日～5月14日	吉原江子氏	土壇1基			

Fig. 3 調査区・観察表

### III 調査の記録

#### 1 調査の概要

調査区は1次調査の北に接し、4次調査の45m東に位置する。調査面積は270m<sup>2</sup>である。遺構面までの基本層序は表土、黄褐色砂層、暗褐色砂層、褐色砂層と続き、標高2.5m前後で遺構面である黃褐色砂層に達する。検出した遺構は壺棺墓12基、土坑19基、溝2条、ピット等である。

周辺の調査区では暗褐色砂層の上面で中～近世の遺構が検出されているが、当調査区においては試掘の結果、擾乱が著しく遺構は検出されなかった。

#### 2 壺棺墓

##### 1号壺棺墓 (Fig. 6・13, PL. 2・6)

調査区北に位置する小児用の壺棺墓である。墓壙は長軸155cm、短軸135cmを測る。主軸方位はS-51°-Wで、埋置角は9°である。壺棺は上壺は壺を打ち欠いて使用している。

上壺(1)は壺を打ち欠き、残存高21.9cm、底径8.6cmを測る。調整は外面は縦方向のハケメ、内面は押圧後ナデを施す。

下壺(2)は口径29.8cm、器高49.3cm、底径9.4cmを測る。口縁部に刻み目を施し、その下に2条の断面三角の凸帯が巡る。調整は外面が縦方向のハケメ、内面は押圧後ナデを施す。

##### 2号壺棺墓 (Fig. 6・13, PL. 2・6)

1号壺棺墓の南に位置する接口式の小児用壺棺墓である。墓壙は長軸152cm、短軸104cmを測る。主軸方位はN-53°-Eで埋置角はほぼ水平である。

上壺(3)は逆L字状の口縁で、口径30.8cm、器高35.5cm、底径8.2cmを測る。調整は外面は口縁部が横方向のナデ、胴部から底部にかけて縦方向のハケメ、内面はナデを施す。

下壺(4)は逆L字状の口縁をもつ壺で口径29.8cm、器高36.3cm、底径7.5cmを測る。調整は外面は口縁部が横方向のナデ、その他が縦方向のハケメ、内面はナデを施す。

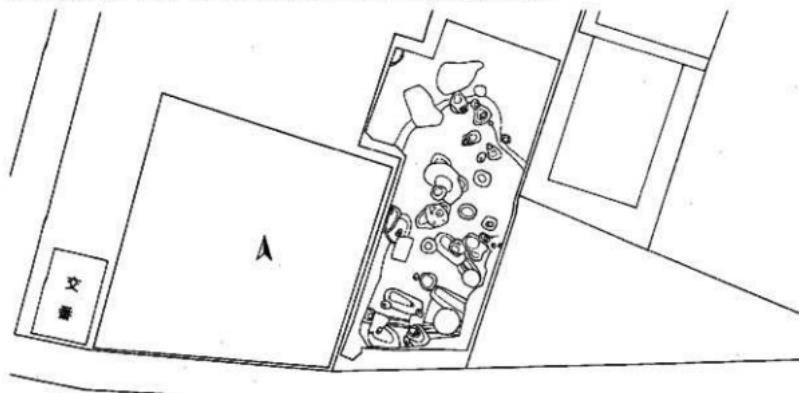


Fig. 4 第25次調査区周辺現況図 (1/400)

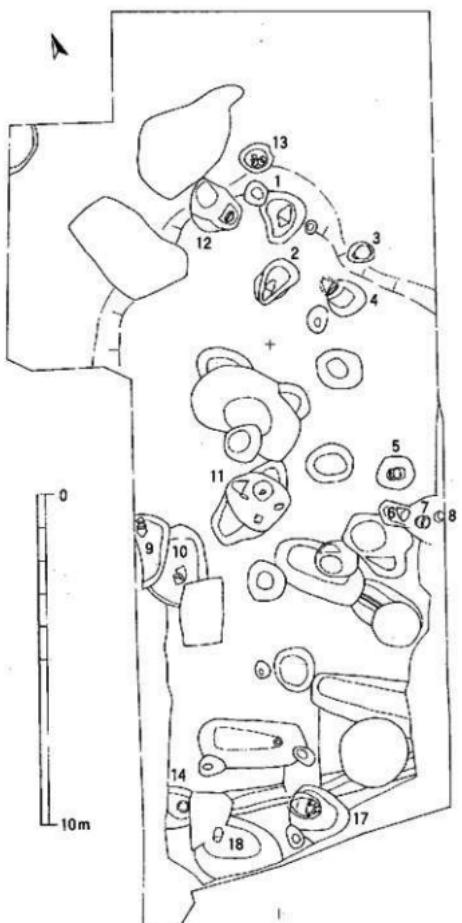


Fig. 5 第25次調査区遺構配置図 (1/150)

### 3号壺棺墓 (Fig. 7・13, PL. 3・6)

1号壺棺墓の東に位置する単棺の小児用壺棺墓である。上部は削平を受けている。墓壙は長軸78cm、短軸60cmを測り、主軸方位をN-53°-Eにとる。

壺棺(5)は逆L字状の口縁でその下に2条の三角凸帯が巡る。口径34.3cm、器高52.2cm、底径9.0cmを測る。調整は外面が口縁部から凸帯にかけて横方向のナデ、その他が縱方向のハケメ、内面はナデを施す。

### 4号壺棺墓 (Fig. 7・13, PL. 3・6)

2号壺棺墓の東に位置する単棺の小児用壺棺墓である。墓壙は豊穴を掘り、その後斜坑を掘ったように思われるが、掘削中に壁を崩したため詳細はわからない。主軸方位はS-23°-Eにとり、埋置角は8°である。

壺棺(6)は逆L字状の口縁をもちその下に1条の三角凸帯を巡らす。口径39.4cm、器高47.2cm、底径8.8cmを測る。調整は外面が縱方向のハケメ、内面が押圧後ナデを施す。

### 5号壺棺墓 (Fig. 7・14, PL. 3・6)

調査区中頃の東に位置する接口式の小児用壺棺墓である。墓壙は長軸117cm、短軸101cmを測り、主軸方位をN-79°-Wにとる。埋置角は44°である。

上壺(7)は底部を削平されており、口径37.6cm、残存高26.1cmを測る。逆L字状の口縁をもち、その下に2条の頂部のだれた三角凸帯が巡る。調整は外面は口縁部付近は横方向のナデ、その他は縱方向のハケメ、内面はナデを施す。

下壺(8)は広口壺で鋤先状の口縁で脇部は最大径が上位にあり、そこに2条のM字凸帯が巡る。調整は外面は口縁部がナデ、頭部に暗文を施す。脇部は上位が横方向のミガキ、凸帯間がナデ、中位が横方向のミガキ、下位が縦方向のミガキ、内面は頭部が横方向のミガキ、脇部はナデを施す。

### 6号壺棺墓

(Fig. 8・14, PL. 3・6)

5号壺棺墓の南に位置する小児用壺棺墓で本来合わせ口であったと思われる。検出時には上壺は下壺内に崩落した状況であった。主軸を S-40°-W にとり、埋置角は 46°である。

上壺(9)は錐先状の口縁でその下に 1 条の三角凸帯が巡る。口径 40.8cm、残存高 33.4cm を測る。調整は外面は口縁から凸帯がナデ、他は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。

下壺(10)は逆 L 字状の口縁で刻み目を施す。その下に頂部のややだれた三角凸帯が巡る。口径 38.4cm、器高 46.8cm、底径 9.5cm を測る。調整は外面は口縁から凸帯がナデ、他は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。

### 7号壺棺墓

(Fig. 8・14, PL. 3・7)

6号壺棺に切られて位置する単棺の小児用壺棺墓である。主軸を S-53°-W にとり、埋置角は 49°である。

壺棺(11)は広口壺を用いる。胴部は最大径が上位にあり、そこに 2 条の三角凸帯を巡らす。頭部は緩やかに外反し、わずかに内側に張り出す平坦な口縁をもつ。口径 28.3cm、残存高 43.3cm を測る。調整は外面は口縁部から頭部にかけて暗文を施し、胴部は横方向のヘラミガキ、底部付近が縦方向のヘラミガキ、内面は頭部が横方向のヘラミガキ、胴部がナデを施す。

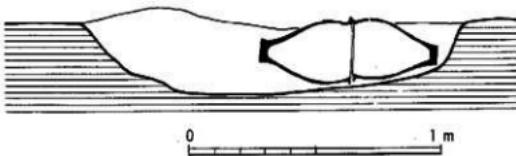
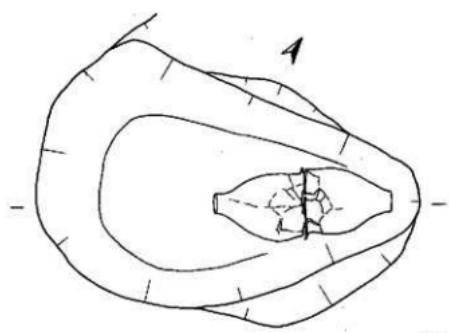
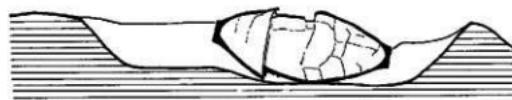
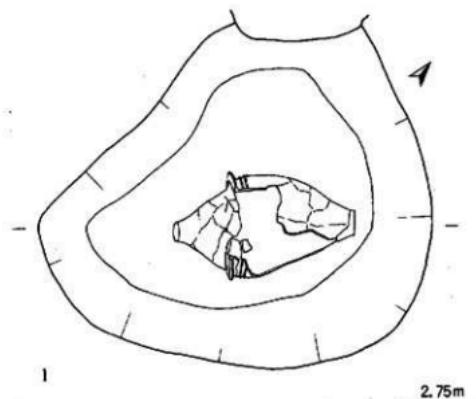


Fig. 6 1・2号壺棺墓実測図 (1/20)

**8号壺棺墓 (Fig. 8・14, PL. 3・7)**

7号壺棺墓の東に位置する単棺の小児用壺棺墓である。調査区際にあるため墓壙のプランは確定できない。主軸をN-81°-Wとり、埋置角は52°である。

壺棺02は丹塗りの広口壺を用いる。短く外反する頸部をもつ。口径28.6cm、器高32.6cmを測る。調整は外面は頸部に暗文を施し、胸部は上位が横方向のヘラミガキ、下位が縦方向のヘラミガキ、内面は頸部がナデ、胸部が板状のナデを施す。

**9号壺棺墓 (Fig. 9・15, PL. 4・7)**

調査区西に位置する接口式の小児用壺棺墓である。墓壙(?)は長軸221cmを測る。主軸はN-15.5°-Wをとり、埋置角は11°である。

上壺03は丹塗りの広口壺を用いる。大きく外反する頸部をもち、胸部にはM字状の凸帯を巡らす。口径30.6cm、器高27.5cm、底径6.8cmを測る。調整は外面は頸部が暗文、胸部が横方向の

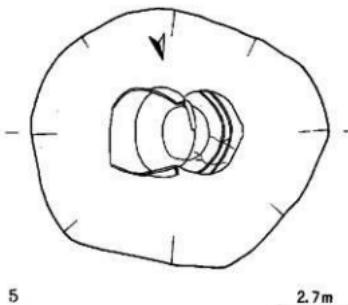
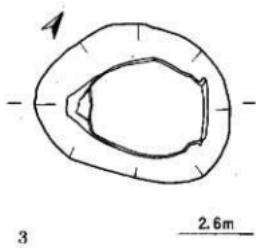
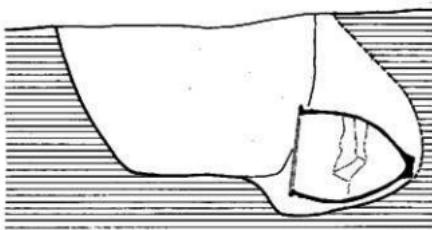
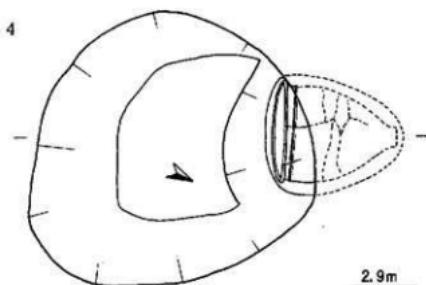


Fig. 7 3・4・5号壺棺墓実測図 (1/20)

ヘラミガキを施す。内面は頸部が横方向のヘラミガキ、胴部がナデを施す。

下堀14は丹塗りの広口壺を用いる。短く外反する頸部をもつ。口径29.3cm、器高31.8cm、底径7.5cmを測る。調整は外面は頸部が20本前後を単位とする暗文、胴部は上位が横方向のヘラミガキ、下位が縦方向のヘラミガキを施す。

#### 10号堀棺墓 (Fig. 9・15, PL. 4・7)

9号堀棺墓に切られて位置する接口式の小児用堀棺墓である。墓壙は長軸226cmを測る楕円形のプランであろう。主軸をN-40°-Eにとり、埋置角は13°である。

上堀15は鉢を用いる。逆L字状の口縁をもつ。口径26.2cm、器高19.9cm、底径8.3cmを測る。調整は外面ハケメ、内面は押圧後縦方向のナデを施す。

下堀16は内傾する逆L字状の口縁をもち、その下に頂部のだれた凸帯を1条巡らす。口径35.9cm、器高46.6cm、底径8.7cmを測る。調整は外面が縦方向のハケメ、内面がナデを施す。

#### 17号堀棺墓 (Fig. 10・16, PL. 4・8)

調査区南に位置する堀棺墓である。合口の形態は呑口式であろうか。墓壙は楕円形のプランで西部に斜坑を掘る。主軸をN-52°-Wにとり、埋置角は36°である。

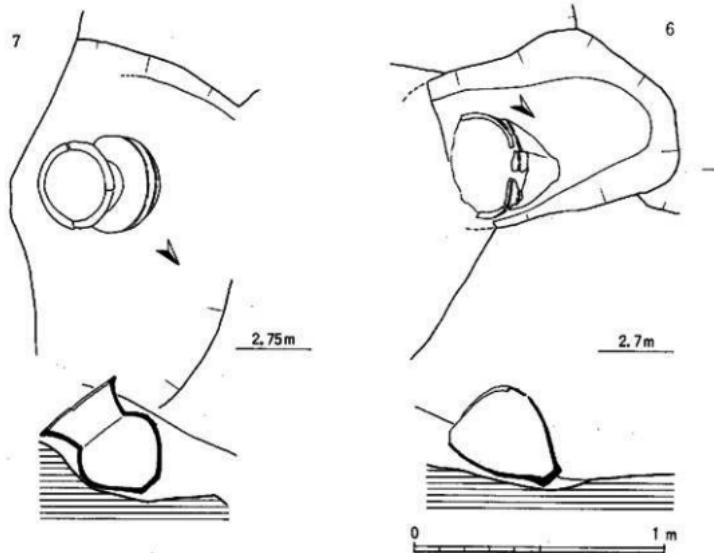
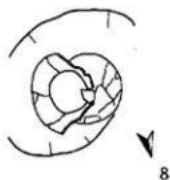


Fig. 8 6・7・8号堀棺墓実測図 (1/20)

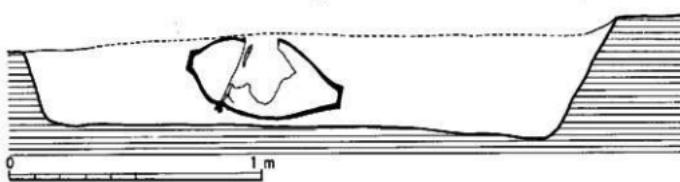
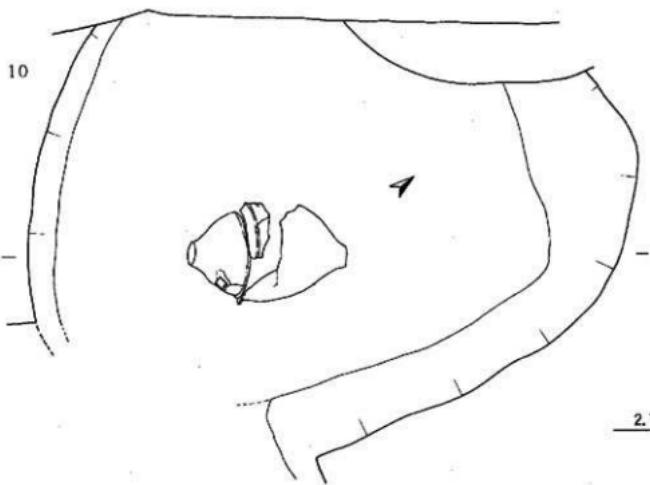
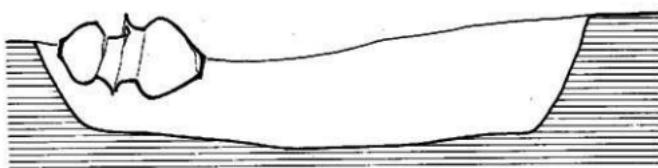
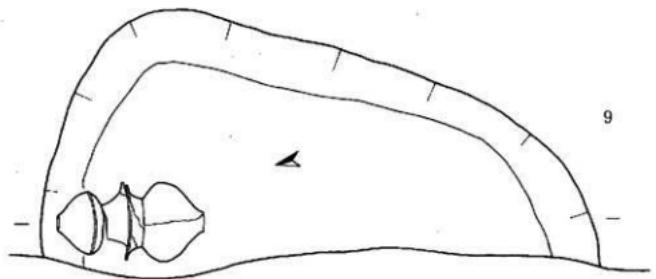


Fig. 9 9·10号墓横墓実測図 (1/20)

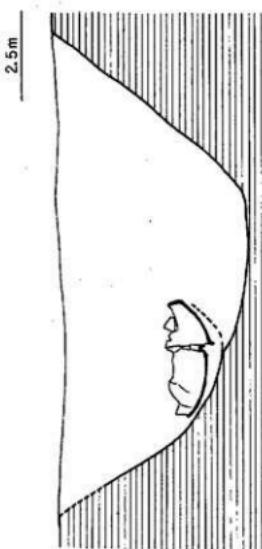
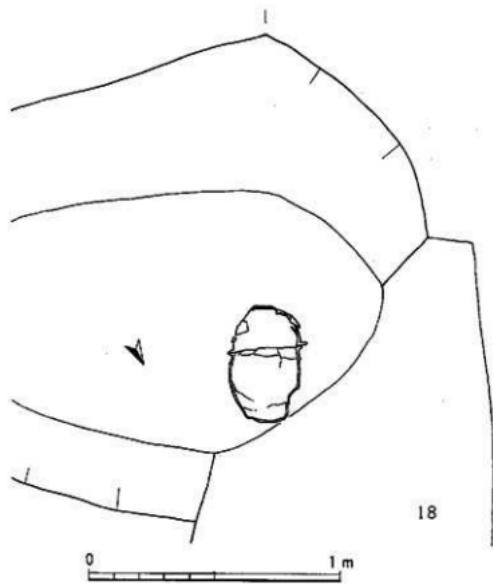
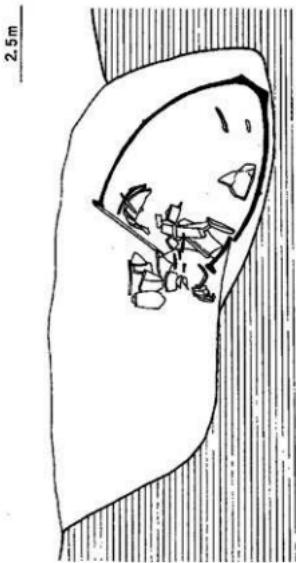


Fig. 10 17·18号墓椁墓室测图 (1/20)

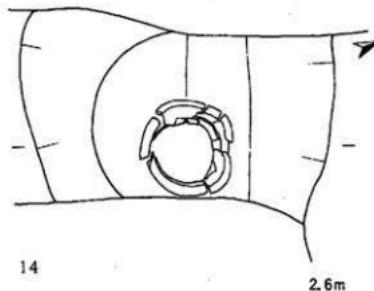
上墓19は頸部を打ち欠いた大型の壺を用いる。胴部の最大径よりやや上にM字状の凸帯を巡らす。調整は外部は上部が横方向のヘラミガキ、下部が縦方向のヘラミガキ。内面はナデを施す。

下墓20は内傾した逆L字状の口縁をもち胴部中位に三角凸帯を巡らす。口径48.3cm、器高75.2cm、底径12.2cmを測る。調整は内外面ともにナデ。また外面にはへら描きによる線刻がある。

#### 18号甕棺墓 (Fig. 10・15, PL. 4・7)

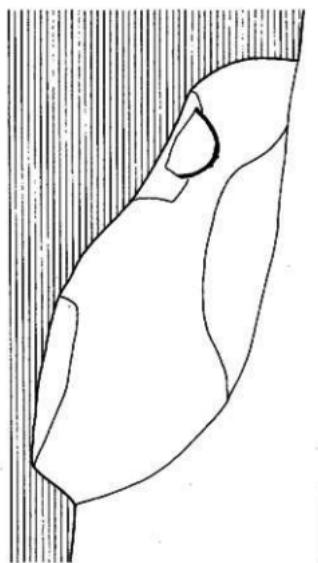
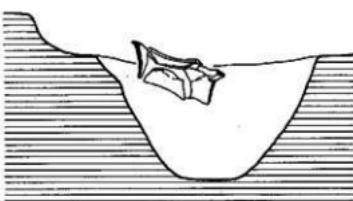
17号甕棺墓の西に位置する接口式の小児用甕棺墓である。墓壙は土坑に掘り込まれており確認できなかった。主軸をN-28°-Eにとり、埋置角はほぼ水平である。

上墓17は鉢を用いる。張り出しの強い逆L字状の口縁をもち、口径32cm、器高17.4cm、底径10.5cmを測る。調整は外側が縦方向のハケメ、内面が押圧後ナデを施す。

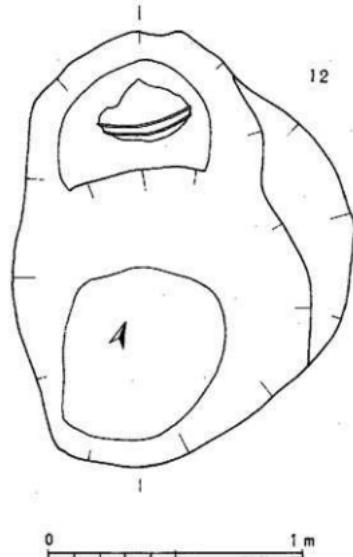


14

2.6m



2.7m



12

1 m

Fig. 11 12・14号土坑実測図 (1/20)

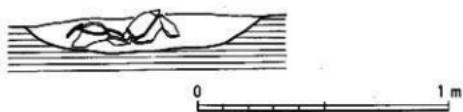
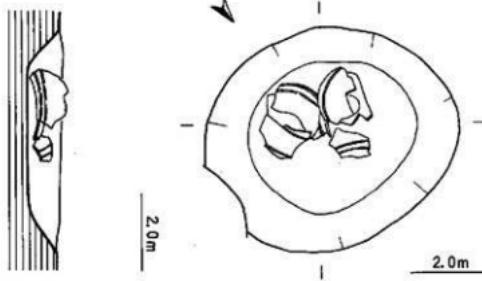
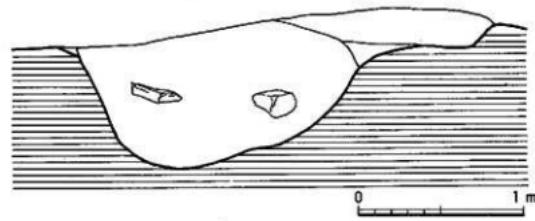
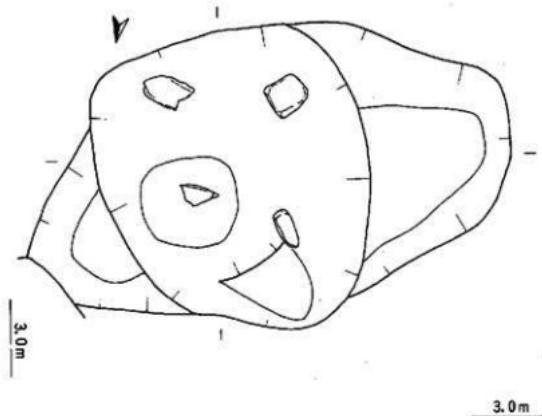
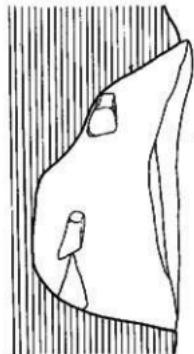


Fig.12 11·13号土坑实测图 (1/30·1/20)

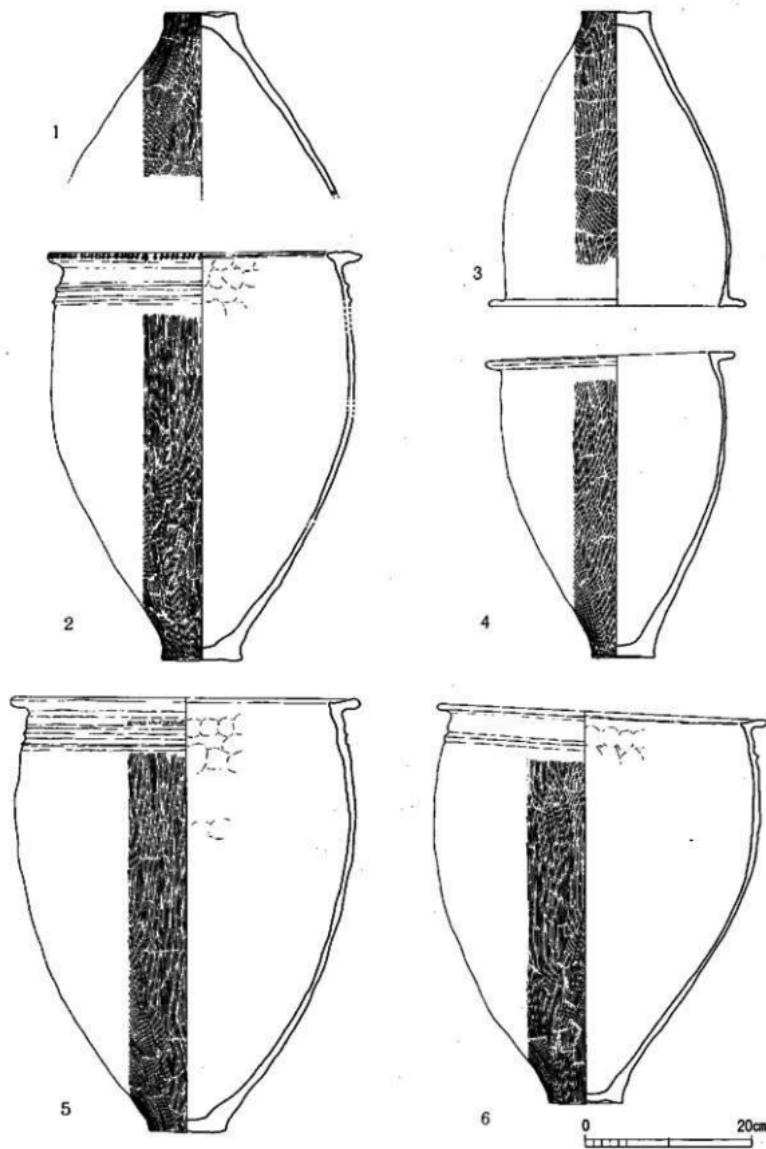


Fig.13 1·2·3·4号壺棺尖測圖 (1/6)

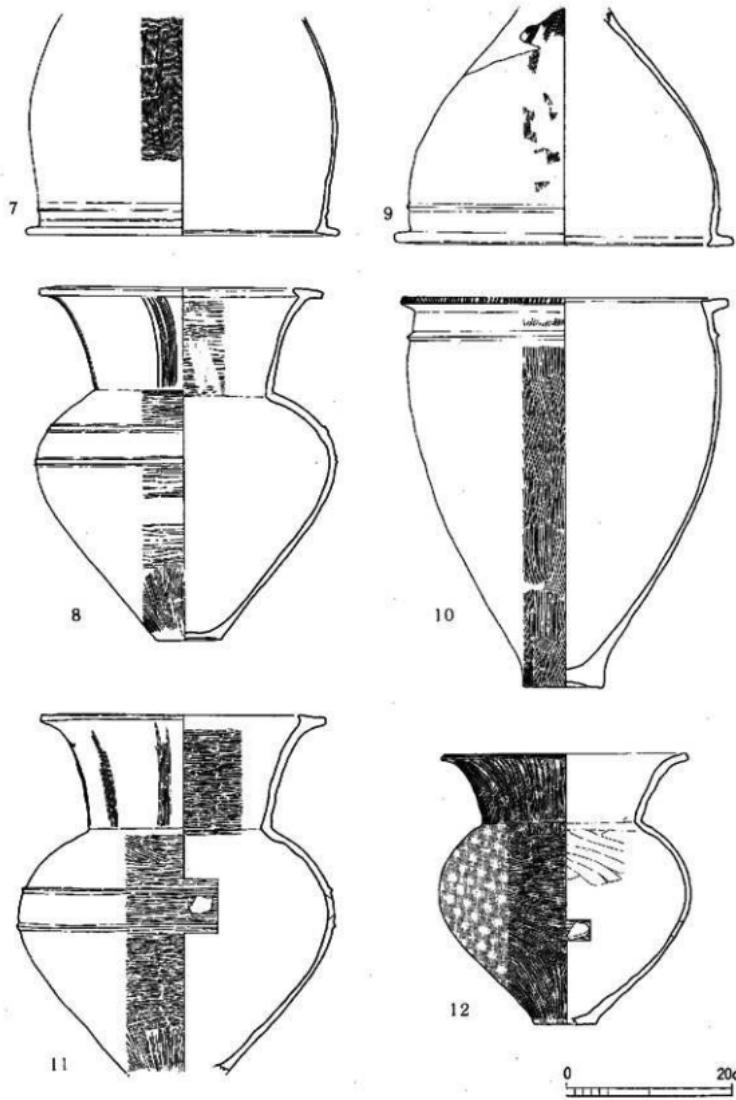


Fig.14 5·6·7·8号壺繪文測圖 (1/6)

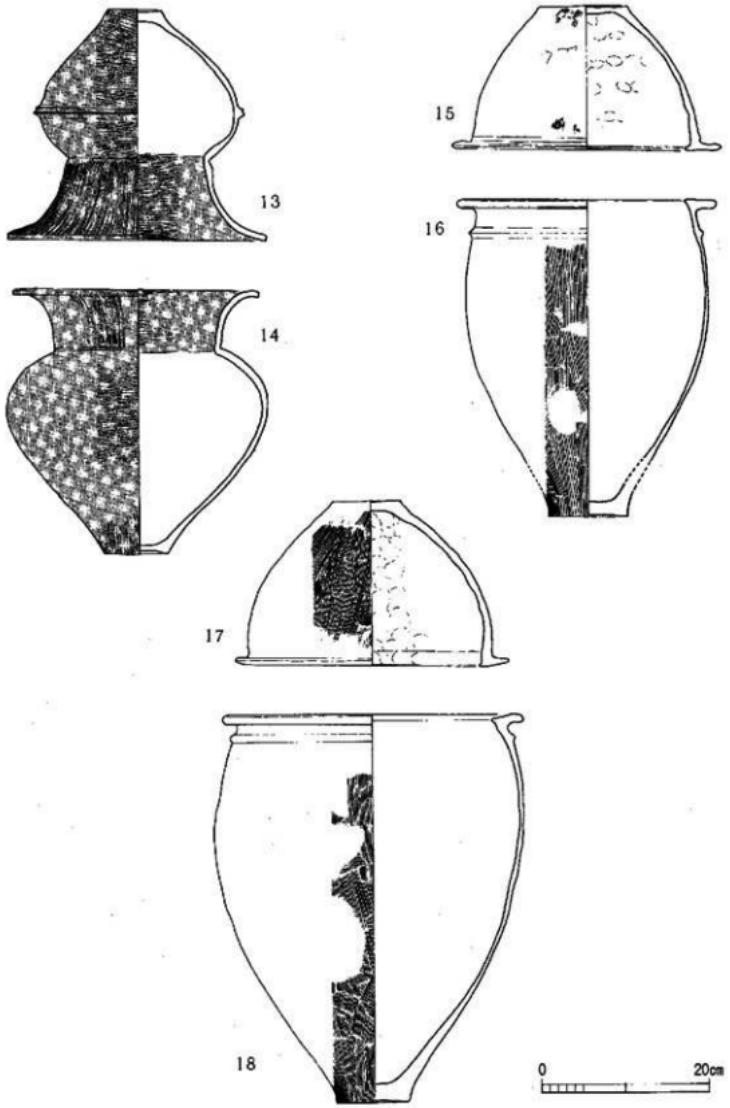


Fig.15 9·10·18号甕棺实物图 (1/6)

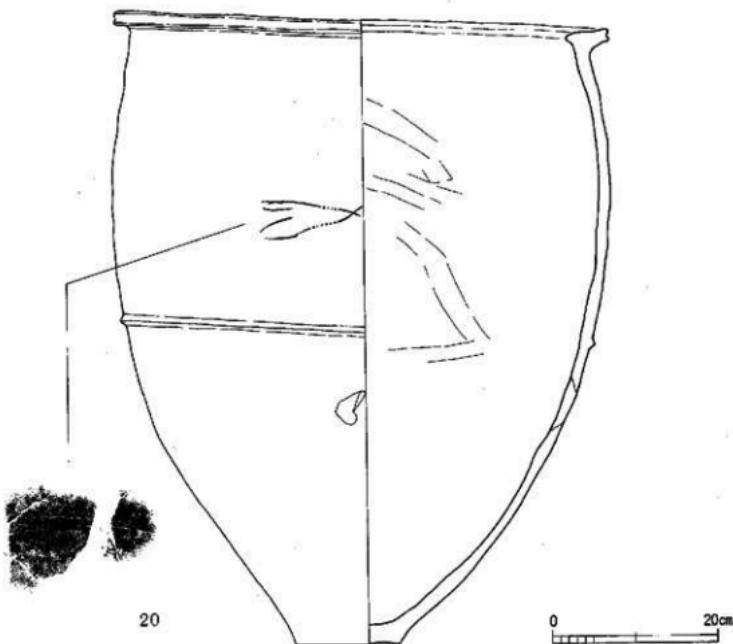
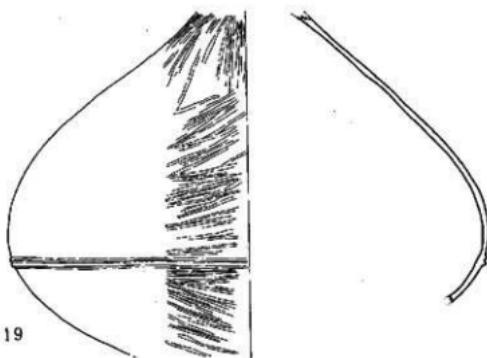


Fig. 16 17号要棺尖測圖 (1/6)

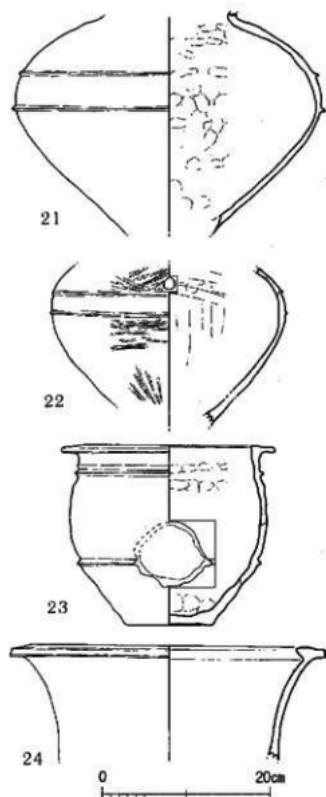


Fig.17 12・13・14号土坑出土遺物実測図(1/6)

#### 4 小 結

今回の調査で検出した壺棺墓の時期は弥生時代中期前半から後半にかけてである。検出した12基中11基は小児墓である。墓域に占める位置は北東端にあたり、小児墓が墓域の縁辺部に広がる可能性もあると思われる。次に17号壺棺墓であるが、下壺胴部に線刻画が描かれており、大型の魚が口を開けているように見える。これを魚とするならば、藤崎遺跡が海に近いこと、壺棺の大きさが中型であること等を考えると、祭祀的意味より、むしろ被葬者の生業を示したものではないかと推測される。

尚、11号土坑は底部の配石状況から木棺墓の可能性、13号土坑は22次調査のS T - 206と類似するが、ともに骨、歯等を検出することはなかったため今回は土坑として報告している。

下壺18は逆L字状の口縁をもちその下に三角凸帯を巡らす。口径31cm、器高38.1cm、底径9.4cmを測る。調整は外面が縱方向のハケメ、内面がナデを施す。

#### 3 土 坑

##### 11号土坑 (Fig. 12, PL. 5)

調査区中央に位置し、南北168cm、東西164cm、高さ88cmを測り、四隅に配石する方形の土坑である。木棺等の置台であろうか。出土遺物はなかった。

##### 12号土坑 (Fig. 11・17, PL. 5・8)

1号壺棺墓の西に位置し、長さ173cm、幅132cmを測り、テラス部分に半裁した壺の胴部を置く。出土遺物は頭部を欠いた壺で胴部の最大径に2条の三角凸帯を巡らす。調整は外面がナデ、内面が押圧後ナデを施す。

##### 13号土坑 (Fig. 12・17, PL. 5・8)

調査区北端に位置する。長軸100cm、短軸89cmを測る梢円形の土坑である。出土遺物22は壺で頭部と底部を欠く。胴部最大径に2条の三角凸帯を巡らす。調整は外面は胴部上位が横方向のミガキ、下位が縱方向のミガキ。内面は押圧後ナデを施す。23は小型の壺で逆L字型の口縁をもち、その下と胴部下位に2条の凸帯を巡らし胴部に穿孔を施す。調整は外面は磨滅により不明。内面は押圧後ナデを施す。

##### 14号土坑 (Fig. 11・17, PL. 5・8)

調査区南西端に位置する。調査区際にかかるためプランは分からぬ。広口壺の頭部を配置してあった。出土遺物24は広口壺の頭部で、口径37.2cmを測る。調整は内外面ともに横方向のナデを施す。

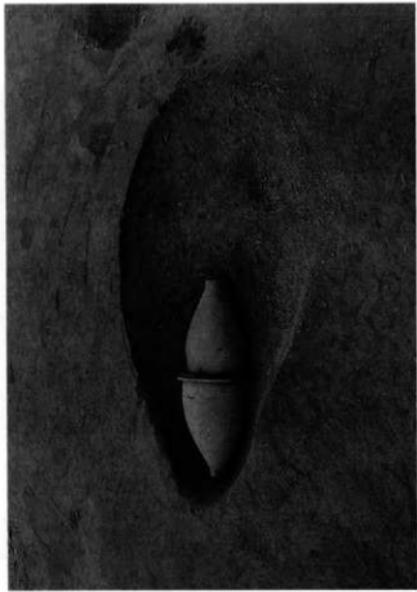
# 図 版

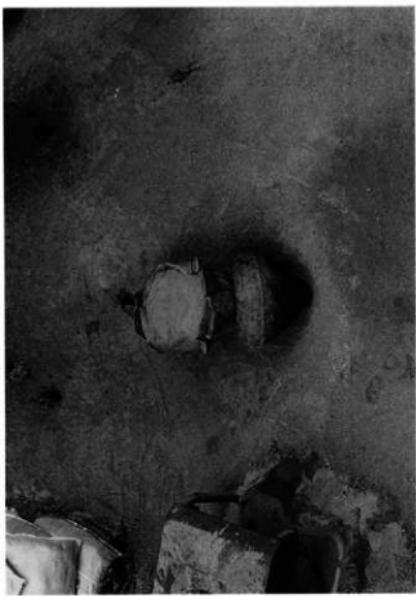


(1) 调查区北部



(2) 调查区南部





(3) 5号墓棺墓



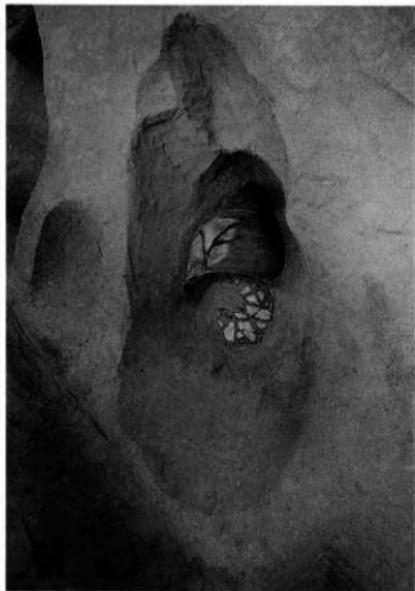
(4) 6·7·8号墓棺墓



(1) 3号墓棺墓



(2) 4号墓棺墓



(3) 17号遗物



(4) 18号遗物

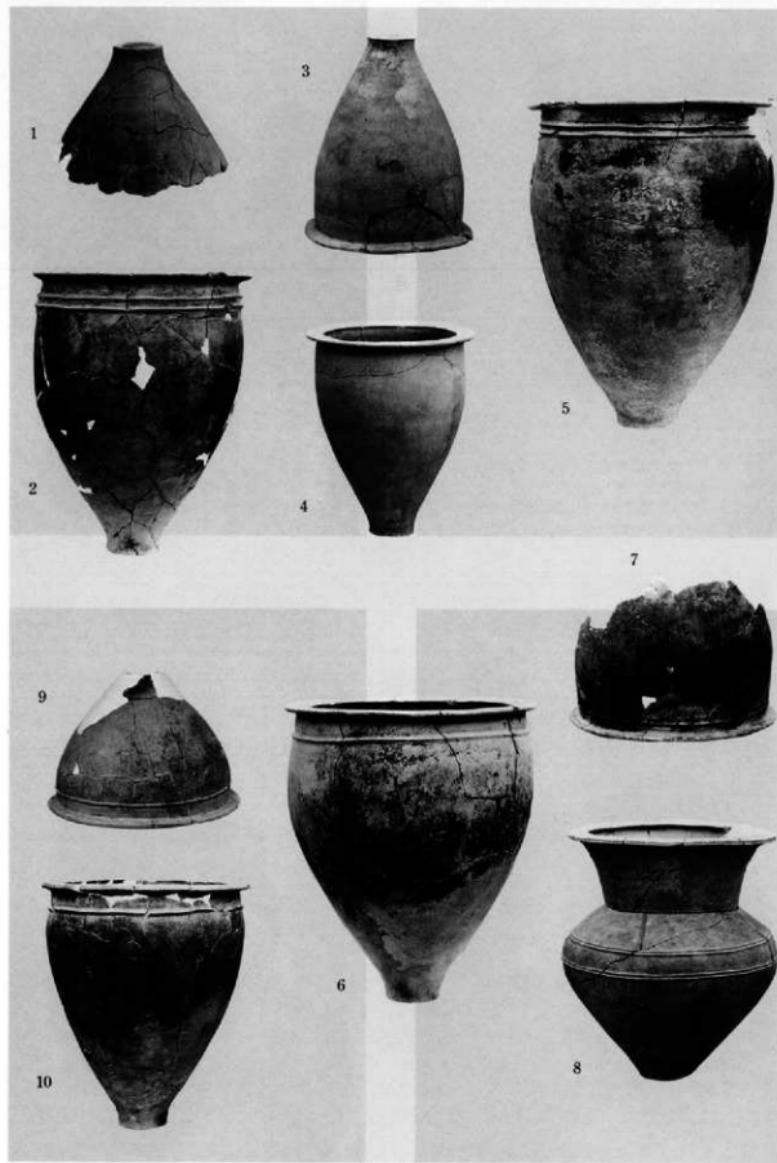


(1) 9号遗物

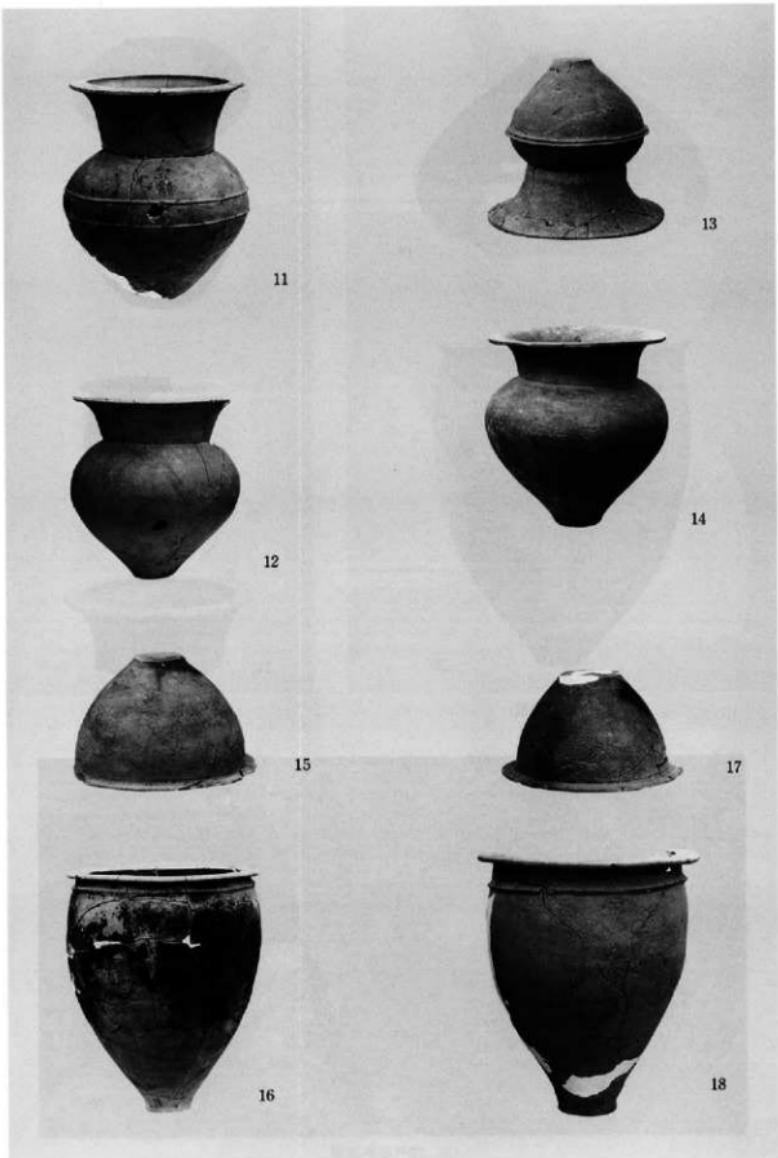


(2) 10号遗物

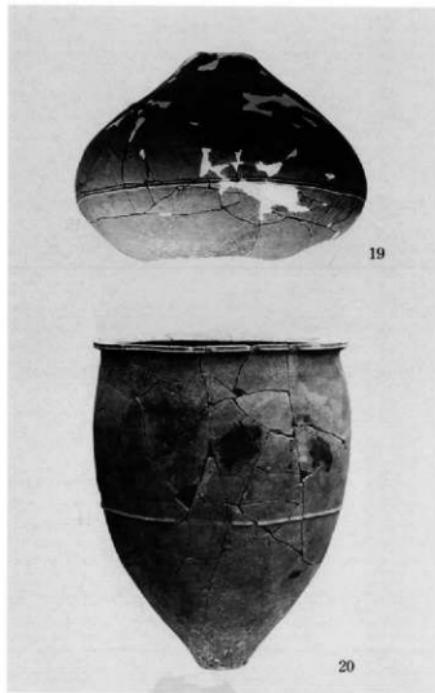




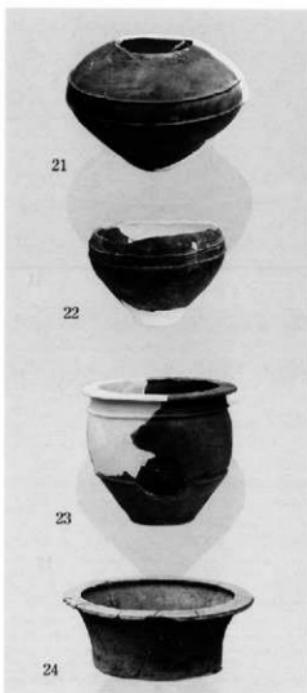
出土壳棺



出土彝棺



(1) 17号墓棺



(2) 土坑出土遗物



(3) 17号墓棺線刻

## 藤崎遺跡 10

福岡市埋蔵文化財調査報告書第419集

1995年（平成7年）3月31日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区大字一丁目8-1  
(092)711-4667

印刷 藤崎ミックスコーポレーション  
福岡市博多区博多駅南六丁目6-1  
(092)431-4061

